

2017年

夏

壮年の課題共有の時間



今を わかちあう

希望を わかちあう

そして

主のわざに いかされる

A 献身者を生み出す教会

B 新任牧師と協働する教会

C 全国大会の開催の方法 (壮年大会をデザインする)

D 奨学金制度の充実

E 「神学校献金 (神学生奨学金献金)」の推進

第52回 全国壮年大会 in 天城

●● 目 次 ●●

はじめに

- 冊子作成にあたって
- 「伝道者養成・教会形成」プロジェクトの展開に係わる件 2016年6月17日
- ワーキング・グループによる答申書『今後の全国壮年会連合活動についての取り組み』

4つのプロジェクト 5つの分団

A. 伝道者養成・教会形成プロジェクト

「献身者を生み出す教会」について

リーダー 北村慎二（関西地方連合壮年会長）

今井 公彦（中部連合） 北村 慎二（関西連合）

松田 裕二（中国・四国連合）大城戸一彦（役員会）

B. 新任牧師と協働する教会

～新任牧師が早期に辞任（離職）する事象を捉えて～

リーダー 梅木芳昭（北九州地方連合壮年会長）

梅木芳昭（北九州連合） 三室日朗（福岡連合） 中島一弘（西九州連合）

曾根基雄（南九州連合） 井伊肇（役員会）

C. 「全国大会開催の方法」（壮年大会をデザインする）

リーダー 向井田 洋（東北地方連合壮年会長）

向井田洋（東北連合） 石井努（北関東連合） 山田誠一（東京連合）

北村賢（神奈川連合） 野口正俊（役員会） 岩ヶ谷吉範（役員会）

飯野實（事務局）

D. 「奨学金制度の充実」

リーダー 篠田裕俊（奨学金委員長）

篠田裕俊 原田陽一 鈴木一弘 山本長邦 伊東信吉（現奨学金委員）

北村慎二 田口清吾（次期奨学金委員）

豊永義典（川崎） 米本裕見子（北赤羽） 岩ヶ谷吉範（役員会）

飯野實（事務局）

E. 「神学校献金（神学生奨学金献金）」の推進

リーダー 野口正俊（役員会）

神学校献金推進委員会議メンバー

冊子作成にあたって

わたしたち全国壮年会連合役員会は、全国の壮年の皆様が、いかに「相互の啓発をはかり、交流親睦を深め、伝道活動に積極的に協力し合うことができるか」を、常に模索しております。

その現れの一つとして、「全国壮年会連合活動に関するワーキング・グループ」からの、『今後の全国壮年会活動について』の提言（2012年3月）を参考としながら、諸施策に取り組んできました。

わたしたちは、去年の地方連合壮年会等代表者会議において意見を求め、「献身者を生み出す教会」・「新任牧師と協働する教会」・「全国大会の開催の方法（壮年大会をデザインする）」・「奨学金制度の充実」の四つのプロジェクトを立ち上げました。その後、地方連合壮年会長が四つのグループに分かれて、担当課題を協議、検討してきました。

そして、天城山荘での全国大会においては、実行委員会の配慮によって「壮年の課題共有の時間」を設けて頂き、以上四つの課題と、さらに、全国壮年会連合における活動の大きな柱の一つであるとし、「神学校献金（神学生奨学金献金）」の推進についても、全国の壮年がその課題を共有し実践する必要があるため、大会での話し合いに加えることとなりました。

大会参加者は、五つの分団に分かれて、発題された報告書等を基に話し合い、課題を共有することができたのではないかと考えております。

このたび、天城での五つの分団の記録を冊子にまとめました。分団では、各地方連合壮年会長たちをはじめ分団のリーダーが祈り、大会に集った壮年たちが希望を語りました。その思いを、皆様方が共有し、実践して頂けたらと思います。それぞれが持たれる集会等の場において、本冊子を利用してくださることを願っております。

本冊子は、時系列にまとめました。

各テーマに対するリーダーからの報告書及び分団での諸兄の発言をまとめてくださった書記の報告書そのまま掲載しました。

生き生きとした内容を楽しんでください。

地方連合壮年会長等代表者会議メンバー
奨学金委員会メンバー
全国壮年会連合役員会メンバー

地方連合壮年会長殿
奨学金委員長殿

全国壮年会連合会長 大城戸一彦

「伝道者養成・教会形成」プロジェクトの展開に係わる件

尊い主のみ名を賛美いたします。

皆様におかれましては、日ごろから、全国壮年会連合の働きを覚え、お支えいただきありがとうございます。

早速ですが、本年5月13日(金)、14日(土)の「2016年度地方連合壮年会等代表者会議」において、熱心に検討していただきました首記の件について、改めて下記の通りご連絡いたします。
大変お忙しい中、恐縮に存じますが、ご協力いただきたくお願い申し上げます。

記

1. プロジェクトの趣旨

2012年3月1日「全国壮年会連合活動に関するワーキング・グループ」により答申された『今後の全国壮年会連合活動について』は、2012年度より可能なものから各施策に反映して取り組んできたが、全国の壮年会員の共通課題として展開までには至らなかった。よって、以下のプロジェクトによって、**教会にある壮年として実践する具体的な活動のあり方を明らかにし、壮年諸氏と活動を共有していきたい。**

2. プロジェクトの概要

<1> 「伝道者養成・教会形成」について、各地方連合壮年会が主体で進める。

プロジェクトテーマ	担当連合(L:リーダー)及び役員	活動費用枠
①「 献身者を生み出す教会 ～教会形成を担う壮年の働きを通して	関西(L)、中部、中国・四国 会長(大城戸)	11万円
②「 新任牧師と協働する教会 ～新任牧師が早期辞任(離職)する事象を捉えて	北九州(L)、福岡、南九州、西九州 書記(井伊)	12万円
③「 全国大会開催の方法 ～大会の充実を目指して	東北(L)、北関東、東京、神奈川 副会長(野口)、事務局長(岩ヶ谷)	8万円

*8月の全国壮年大会(総会)前に、プロジェクトを開始しても良い。

*担当連合壮年会長の基、有志を加えて検討することも可能。

*2回程度の活動費用としたが、2回には拘らなくても良い。ただし上記活動費枠内をお願いする。

<2> 「**奨学金制度の充実**」を連盟理事会の同意のもとで、奨学金委員(含理事)を中心に有志を加え進める。

<予算枠: 4万円>

<3> 「地方連合壮年会等代表者会議」の位置づけについて、役員会が主体となり改善を進める。

<4> 役員・奨学金委員に対する全国壮年大会参加費の補助、および職務遂行に関する日当の支給について、地方連合壮年会の状況を参考に役員会が検討する。(監査からの指摘への対応)

3. 活動期間

2016年度中(2017年3月末)

2017年度代表者会議で活動報告を行い、同年の総会に備える。

4. その他

本件に関するお問い合わせは、全国壮年会連合事務局(048-886-7533、sonen@bapren.jp)までお願いいたします。

以上

【参考資料】

ワーキング・グループによる答申書『今後の全国壮年会連合活動について』の取り組み

- ◇ 答申書受理日：2012年3月1日
- ◇ 答申者：2010～11年度役員会からの委嘱によるワーキング・グループ（以下WG）
構成メンバー：渡邊 亶（恵泉・長）、久場俊男（恵泉）、野口正俊（志村）、豊永義典（川崎）
陪席：田矢廣司（堺・当時事務局長）、大城戸一彦（西川口・当時奨学金委員長）
- ※ 2012年4月から2017年8月までの〈取り組み〉について、第52回全国壮年大会における「壮年の課題共有の時間」のための参考資料として添付します。

注：〈提案〉は、WGからの提案。〈取り組み〉及び〈今後の課題〉は、全国壮年会連合による。

II. 壮年会活動の二本柱

1. 伝道者養成について ～ 神学校（奨学金）献金という切り口でなく、伝道者養成の視点から

〈提案〉

いま壮年会連合は「伝道者・後継者養成」のため、全国の壮年が思いを共有し、働きを協働できるよう、その方向を具体的に示すべきである。そのためにも先ず、壮年会連合が自ら、各地方壮年連合がそれぞれに取り組む、修養会、研修会、その他の学びや、交わりの場に積極的に協力、参加することが必要であるとする。各地方壮年連合との情報の共有と様々な活動への協力を積極的に進めること。

〈取り組み〉

- 壮年会連合ニュースにおいて、生き生きと地域で活躍する壮年（会）の証しを積極的に掲載し、紹介してきた。
- 2014年度から壮年会連合ニュースに、例会等の学びに供するために、伝道者養成の視点で特集記事を掲載している。（2014年度は吉高常務理事に執筆を依頼。2015年度は松見享子宣教研究所員に依頼する）
- 2013年度から地方連合の交流を深めて、壮年同士が互いに刺激し合い成長することを意図し、二つ以上の地方連合壮年会が合同で行う行事を奨励し、資金面の支援を行ってきた。
- 情報共有化のツールとしてホームページのリニューアルを行い、必要情報を掲載した。
- 役員会情報の発信のため、壮年会連合ニュースにて、会議報告等を掲載してきた。

➤ 分団「献身者を生み出す教会」及び「新任牧師と協働する教会」で課題を共有願いたい。

2. 教会形成を担う壮年

〈提案〉

1) 壮年の成長に寄与する研修会の拡充

従来から、各連合、連盟宣教部、宣教研究所による研修会が各種行われている。

さらに壮年会連合による研修会が考えられる、1つの提言としては壮年大会を隔年ごとに2泊3日にし、そこで各種の研修を行う。

2) 壮年のスキルの活用

壮年は各種の分野で、色々と活躍しており、その能力を各教会で生かすべく、人材バンクとして登録して貰い、その運営を通して壮年会連合がその橋渡しを行う。

〈取り組み〉

- 全国壮年大会の日程を、首都圏及び福岡での大会は2泊3日で行うべく努力したが、主として実行委員会の諸事情により実行できなかった。（第52回は2泊3日で開催）
➤ 分団「全国大会の開催方法」（壮年大会をデザインする）で課題を共有願いたい。
- 壮年のスキルの活用について、まず、壮年会連合ニュース（第72号から第80号）の紙面で、定年後に社会とのかかわりを持ち、生き生きと活躍する壮年の紹介記事を掲載した。
➤ 分団「献身者を生み出す教会」及び「新任牧師と協働する教会」における具体的な方策として課題を共有願いたい。

Ⅲ. 組織・財政に関する提案

1. 全国壮年大会・総会、全国代表者会議、神学校献金推進委員会、奨学金委員会

1) 総会の持ち方（含む、全国壮年大会）

<提 案>

- **天城山荘での2泊3日と地方での1泊2日を隔年で実施する。役員の任期は2年であり、2年間でひとくくりにして計画を考えたらどうだろうか。**
即ち、地方で開催する場合は、総会の時間を出来るだけ短くするよう工夫し、その他のプログラムで学びや交わりを喜ぶ時間を確保する。
- **議案書を簡潔なものにする。**

<取り組み>

- 首都圏及び福岡壮年会が隔年で担当する大会について2泊3日となることが望ましいが、主として実行委員会の諸事情により実施できなかった。
➢ 分団「全国大会の開催方法」(壮年大会をデザインする)で課題を共有願いたい。
- 議案書(大会資料と報告書)については、作成コスト(労力)の軽減を狙い、ページ数の削減、ネットによる業者への一括製本発注とした。(従前は事務局が印刷し、業者に製本を依頼していたが、単価的に遜色がないため、現方法に切り替えた)

2) 全国代表者会議の権限強化、位置付けの改善

<提 案>

- **総会提出議案を精査して総会に諮るための機関として位置付ける。**
- **代表者会議は、最低1泊2日とし、総会議案だけではなく、壮年の課題について討議する場とする。**

<取り組み>

- 代表者会議は、全国壮年会連合役員会に総会議案に対して諮問することを中心に機能してきたが、限定的な決裁権限をも有しない会議であった。よって、代表者会議を総会との関連において、限定的ではあるが役員会と実行責任を共有できるような位置づけに改め、メンバーの参画意識と意義を高めたい。
また、全国大会時に開催する総会での審議を限られた時間の中で、より重要性の高い議題に多く時間を配分するなど、メリハリのついた運営に資するように代表者会議が総会の一部機能の代行を担うこととしたい。
特に報告事項は、十分な時間(1泊2日)をかけて代表者会議において精査し総会に報告することとし、より精度の高い報告として壮年の皆様からの信頼を得て以降の施策に反映することができるようにしたい。
以上を踏まえて、2018年度(トライアル)より代表者会議の日程と運営を変更したい。

3) 神学校献金推進委員会の曖昧さ

<提 案>

- **全国レベルでの神学校献金推進委員会の組織化はしない。神学校献金の推進は壮年会の活動の柱であり、各地方連合の会長を中心に、代表者会議のなかで必要な情報交換は行なう。全国代表者会議への地方連合からの派遣は原則1名となる。なお、地方連合レベルでは、神学校献金の推進のために、会長とは独立に選出しても構わない。**

<取り組み>

- 神学校献金推進委員は地方連合の壮年会のもとで、神学校献金(神学生奨学金献金)推進活動を担っていただく位置づけにあると理解している。しかし、本活動について情報の共有化が必要であるので、全国大会に合わせて役員会(副会長)が招集し「神学校献金推進委員会会議」を開催している。また、大会で「神学校献金(奨学金献金)」の推進をアピールする時間を大会実行委員会に求めている。
今後も役員会と課題を共有し、協力していくために規則細則の改定を目指す。

4) 伝道者養成のために資する奨学金制度運営の再構築

<提 案>

① 職務の評価と課題の明確化

- 制度面、実務面での評価
- 今後取り組まなければならない課題の認識と連盟との共有化

② 伝道者養成に資する制度とするための壮年会連合としての役割、責任の明確化

上記①を受けて、連盟と壮年会連合の責任区分（棲み分け）の明確化を軸に課題解決を図りたい。以下にWGにて抽出した課題と方向性を示す。

(ア) 奨学金制度（体系）の再構築

- 連盟における「奨学金委員会」の位置づけ
- 連盟における奨学金制度運営に関する諸規程の位置づけ
- 委託先である壮年会連合の参与の仕方

(イ) 資金（神学校献金）管理範囲の明確化

- 伝道者養成の業への効果的資金活用の仕組み検討
現行の「西南学院神学部学生奨学金」に特化した資金として壮年会連合口座に留保している実態をあらため、本来の所管元である連盟が伝道者養成に資する基金（資金）として効果的に運用できるようにあるべき仕組みを検討する。

(ウ) 業務委託契約書の締結

- 委託業務内容の明文化と締結
- 本制度が伝道者養成の業として機能させるための連盟との棲み分け明確化
- 壮年会連合の受託の範囲は「運営実務に徹する、との方向付けが基本

(エ) 適正な委託料金の設定

- 現行の「神学校献金額10%以内」の是非検討
- 奨学金制度運営実務に特化した適正費用の算定
(ア) の方向付けによる。

(オ) 奨学金貸与範囲の検討

- 連合立神学校も含め伝道者養成のため貸与範囲の拡大
本件は連盟理事会にて検討に着手した段階であるが、実務部門として陪席し、積極的に意見を述べる機会が与えられるよう申し入れる。

<取り組み>

① 制度の評価と課題の明確化

- まず、2001年からの委員会の活動を整理し、今後の委員会運営に役立てるように取り組みたい。

② 伝道者養成に資する制度とするための壮年会連合としての役割、責任の明確化

- (ア) 連盟では、理事会委嘱の特別委員会として明確に位置づけられ、その理事会への報告は理事会派遣委員である「奨学金制度担当理事」が行うこととなった。今後も、受託の基本である「自立的に担う、との壮年の意欲が損なわれることのないようにしていく。
- (イ) もともとの会計制度は「奨学金会計」1本であったが、「神学校献金会計」と「奨学金会計」に分離し、状況を把握しやすいように変更した。前者は壮年会連合に資金の管理を委託している理事会が資金状況をクリアーに把握できることを主眼としている。当然のことながら、管理上の課題については、壮年会連合として意見を述べ、参与していく。
- (ウ) 前記(ア)の通り、職務についての理事会の認識が高まったことにより、作業内容を明示した業務委託契約書の締結は行っていない。現行は「奨学金規程」について理事会の認識のもとで運営している。
- (エ) 当面、現規程による委託料金に相当する（前年度の）神学校献金10%以内で運営を行っているが、極力削減する方向での努力は続ける。
- (オ) 連合立等神学校奨学金制度への資金の提供は2013年度より実現した。

➤ 分団「奨学金制度の充実」で課題を共有願いたい。更なる充実に向けて検討して

いきたい。

2. 全国壮年会連合役員会及び事務局、地方連合壮年会、各教会・伝道所の壮年会

1) 役員会のあり方

<提 案>

- 役員会の審議内容の公開
- 役員会のメンバーは監査を1名として6名体制とする。監査は役員会に陪席することを規約にも明記する。
- 役員の任期に関しては、会長以外は任期2年で2期までとなっているが、会長だけは再任に関する規定がない。会長も再任の回数を規定すべきである。
- 事務局長の常勤化。

<取り組み>

- 役員会及び奨学金委員会の審議内容は、壮年会連合ニュースに掲載している。

<今後の課題>

- 監査を1名とした場合、財務監査を中心に行うこととなろうが、その可否も含め、2016年・2017年度監査に意向を伝え検討してきた。監査としての責任の問題もあり業務監査と意見具申の機能を考慮した場合、2名体制が妥当であるとの結論を得た。
- マンネリによる多選は論外であるが、会長の再任に制限を加えることが合理的なこととは思わない。選挙する側の意思決定の問題でもあるので慎重に検討する必要がある。
- 事務局長の常勤化については、まず財政上の問題をクリアーにする必要がある。事務局員との業務の棲み分け、無給あるいは日当程度で重い責任を担いモチベーション高く職務が遂行できるのか、形は作れるが壮年会連合の体制の中で形骸化・人事の固定化を防ぐ自浄力が見出せるのか等、課題は大きい。現時点ではむしろ実務に徹する事務局員のフルタイムでの就労が喫緊の課題である。

2) 事務局体制

<提 案>

- 事務局業務の一日の稼働時間の見直しと効率化

<取り組み>

- 2012年度から、全国からの問い合わせ等に対応するため、稼働時間を10:00～16:00に変更した。但し、人件費と個人都合の制約から、月・水・金：1名の稼働である。合わせて、労働契約書を締結し、職務体制を明確にした。
- 経理について壮年会連合の実態に合ったアプリケーションを作成し、効率化を図った。

<今後の課題>

- 総仕事量から見て、事務局員1名では処理能力を超えており、役員・奨学金委員が無報酬で事務実務をカバーしている実態にある。

3. 財政上の課題

1) 会費一値上げでなく、納入者の範囲拡大策、広報の強化

① 二会計における負担経費の明確化

<提 案>

(奨学金規程による神学校献金会計からの制度運営費用の適正化評価のため：役員会注)、早急に一般会計、奨学金会計の経費の線引きを行う事を提言する。明確に線引きできない経費については、適正な配賦基準を設け、それぞれの会計に按分計上する。また、奨学金会計報告、奨学金会計予算においては、算定された経費をそれぞれに計上し、それぞれの収支を明確化する。

② 上限10%という経費負担の見直し

<提 案>

会計の明確化により、精査し、必要であれば経費負担率の見直しを検討すべきである。

③ 会費収入の現状

<提 案>

会費納入率を上げ、会費収入の増加を図るため広報活動の強化充実を行う。

<取り組み>

- ② 経費負担率の見直しは慎重に考えている。まず、各教会壮年のうちから納入者を増やすことが先決であり、各地方連合の実態について壮年会連合ニュースなどでアピールを続けている。
- ③ 壮年会連合ニュース等で役員会・奨学金委員会の活動をPRしている。連盟宣教部、女性連合が主催している研修会に壮年会員を派遣するなど、目に見える形で参与することに心掛けている。

4. その他

1) 連盟理事会との協働関係の強化（確立）

<提 案>

- 奨学金制度の運営に関する協議を速やかに開始し、それを切り口に将来的に定期的な二者協議の場に進展させていく。
- 伝道者養成について、理事会との積極的な意見交換のもとで、壮年会連合の活動の重要な柱として施策展開ができるように具体化を図る。

<取り組み>

- 奨学金制度における二者協議については、連盟理事会派遣理事が奨学金委員となっており、二者協議としての体は取られている。
- 連盟が取り組むプロジェクト（連合立神学校奨学金制度、伝道者養成に関する案件等）には、会長が参与しており、連盟との協働は図られていると判断している。
- 連盟宣教部、宣教研究所、女性連合が主催・共催する伝道者養成の研修企画と運営について、2014年度から壮年会連合も参与している。

以 上

分団 A

伝道者養成・教会形成プロジェクト「献身者を生み出す教会」について (提言)

「献身者を生み出す教会」プロジェクト
リーダー 北村 慎二

1. はじめに

中部地方連合壮年会長、関西地方教会連合壮年会長、中国・四国地方教会連合壮年会長は全国壮年会連合より、連合壮年会長の協力のもとで、伝道者養成・教会形成プロジェクトにおける「献身者を生み出す教会」をテーマとし、組織で、また個人で取り組むについて検討するよう依頼を受け、検討を行った。

当プロジェクトチームは2016年11月15日(土)、2017年1月14日(土)、2017年3月25日(土)の3回に亘って打合せを行ったほか、それぞれの地方教会連合での集会の場等でも本テーマについて話し合った。多様な観点からディスカッションが行われたが、最終的に以下の通り提言する。

2. 「献身者を生み出す教会」となるために、下記のことを提言する。

各教会が「献身者を生み出す教会」について考える機会を持つことが重要と考える。そのためのたたき台として「献身者を生み出す教会マインドマップ」「献身者を支える壮年の祈り」を作成したので、活用いただきたい。

(1) 「献身者を生み出す教会マインドマップ」

「献身者を生み出す教会」について話し合う場合のテーマのポイントを概観すべく、マインドマップ(樹形図)を作成した。本来発想を豊かに展開して行くためのツールであり、自由に展開していただいてもらいたいものであるが、当プロジェクトで検討した主な内容を以下に記す。

①種蒔き

献身の思いをもった原点を何名かの牧師に尋ねたところ、全国小羊大会や全国少年少女会などで仲間と出会い、献身の思いが芽生え、その後も仲間との交

流が続く中で、祈り祈られ、自分の進路を決める時に具体的な献身の思いが与えられた、というお話を多々伺った。種を蒔かれるのは神さまであろうが、種を蒔いてもらうために全国大会等に若い人たちを派遣したい。そのために壮年も子ども・少年少女・青年たちによく接し、全国大会への参加を勧めたり、引率役・リーダー役を引き受けたりして積極的に関わって行くことが必要ではなかろうか。

また子ども・少年少女・青年たちは教会の中で牧師に対してある種のあこがれを持つこともあると思う。しかし牧師個人だけではなく、牧師と信徒がどのような関係になっていて、信徒が牧師をどのように支えているかということを感じてみるのではなかろうか。牧師と信徒の関係がうまく行っていなければ、自分が牧師になろうとはなかなか思えないのではあるまいか。壮年が喜んで牧師を支えている姿、これを見て子ども・少年少女・青年たちは献身への思いが触発されるのではないだろうか。

② 献身の思い

教会では「信仰告白の勧め」はするが、「献身の勧め」をすることはあまり行われていないように思う。礼拝の中で「献身の勧め」のメッセージや祈りのときを持つことや献身についての研修会を開催するなどといった取り組みも必要ではないだろうか。

また教会内から献身者が現れたら両手を挙げて喜び、送り出すということになりがちであるが、献身者を本当に献身者として送り出してよいかの吟味をしっかりとすることも必要ではないか。牧師としての適性を人間的な目で的確に判断できるわけではないが、他人の目というものが参考になることも事実。召命は個人に属する事柄ではあるが、教会として推薦して送り出すわけで、その意味で教会としての召命も問われていることを忘れてはならない。才能溢れた人でないと牧師になれない、というのではないが、「ひとりよがりの召命」になっていないか、教会としてチェックし、牧師として大成するためにはこのような点を心がけたほうがよいといった教会員からのアドバイスに真摯に耳を傾け、教会員も真摯にアドバイスできるような関係性をもって送り出し、送り出した後も、祈りに覚え、情報を交換し、奨学金等で支え、しっかりと関係を保つ。

言わば教会として献身する思いをもって、献身を教会の出来事とすることである。

③ 献身することの不安と寄り添う壮年

献身に思いを馳せても、献身の先に待ち受けているさまざまな不安の存在が献身の決意の妨げとなるように思う。自分は牧師として相応しいかどうか、一体どのような教会に招聘されるのか、給与面・生活面では大丈夫だろうか、赴任先の教会における人間関係はどうだろうか、など果てしない不安がつきまとう。牧師とはどういうことをしている人かは身近に見ているわけではあるが、各個教会主義のバプテストでは隣同士の教会であっても結構違いが大きいものである。そんな中に飛び込んで行くには幾分かの不安を軽減できないとなかなか決断はできないのではなかろうか。

そんな不安に理解を示し、みんなで祈り、支えて行き、一生涯かけてサポートするぐらいの気概が大切である。それゆえ教会としての献身が必要なのであるまいか。

また牧師とて人間なのであるから失敗することもあるし、完全無欠な人間でないと牧師になれないというわけではない。「艱難辛苦に負けない立派な牧師像」だけでは若い人は牧師になろうという気持は萎えてしまうのではないだろうか。

一方で、牧師を育てる熱心のあまり、自分の思う枠組みにはめて育てようとするのもまた危険である。完全無欠な牧師を作ろうと思わないほうがいい。欠点とみなすか個性とみなすかは紙一重である。教会には過去の傷を負ったいろんな人が来るので、広い心で受容する力がないと牧会者としてはうまく行かないのではないか。赦された罪人という基本を見失ってはならない。

④ 牧師の多様なパターンとチームでの牧会

人口の減少と超高齢化社会の到来により、教会の今後の財政的側面には厳しいものがあると思われる。その中でこの程度の牧師給しか払えません、と申し分けなく思いながら牧師を招聘しなければならない教会が増えて来るであろう。しかし卑屈になるのではなく、多様な牧会のタイプを考えてみてはどうだろうか。別の職業を持った兼業牧師、会社をリタイアした後に牧師となる年金牧師、複数教会を兼務する兼牧牧師などの形も想定される。もちろん様々な課題があ

るが、そのような牧会を可能にするためには、信徒が牧師の役割の一部を分担するチームでの牧会が不可欠である。万人祭司を標榜するバプテスト教会ならではの強みを用いる時ではなかろうか。またこのような仕組みは試行錯誤をしながらやっけて行かざるを得ないので、やってみて出て来た課題を共有し、また連合や連盟などにも情報発信をし、P D C Aのサイクルをまわすことも大切だと思われる。

安心して牧師になってもらうための仕組みのひとつとして、サポートセンターの設置も検討課題と思われる。例えば各地方教会連合単位でサポートセンターを設立し、人材派遣センター、事務業務のアウトソーシングセンター的な役割を請け負うものである。退職者など時間的にゆとりのある者を中心に登録し、例えば草刈り応援、ペンキ塗り応援、礼拝説教者派遣、こどもプログラム実施者派遣、聖歌隊派遣、讃美指導、会堂修繕派遣、建築技師派遣、電気技師派遣、経理業務請負、印刷物請負、パソコンコーチ派遣、記念誌作成応援などを行う。会社を退職した人の活用は退職者の新たな生きがいを提供することにもなり、教会の奉仕者不足にも対応することができる。センターと言っても実在の場所を設けずともインターネット上で情報をやり取りすることも可能ではないか。またサポートセンターへの登録という新しい献身の道を提供することになり、退任牧師もこのサポートセンターに登録することで退任後も様々な関わりを持ち続けることができ、一生献身者としても道を歩むことができるのではあるまいか。

⑤ 寄り添う壮年

牧師と信徒の関係でさらに言うと、寄り添う関係ということが求められているのではなかろうか。支える、支えられるという関係性もあるが、どちらかが支援するのではなく、寄り添う。自分も一緒になって楽しみたいから、奉仕したいから、悩みたいから、労苦したいから「寄り添う」。上からでもなく、下からでもなく、横から寄り添うのである。上位下達の組織文化で育まれた壮年にとって寄り添うことは案外難しいかも知れない。それゆえ壮年こそが率先して「寄り添う」努力をすることが必要である。牧師に寄り添う、こどもたちに寄り添う、地域の人に寄り添う、諸集會に寄り添う。初めは煙たがられるかも知れない。ぎこちないかも知れない。しかし寄り添うのである。実にイエスさま

は私たちに寄り添ってくださったのではあるまいか。寄り添う壮年となりたいものである。

(2) 「献身者を支える壮年の祈り」

私たちの力で献身者を生み出すことができるわけではないが、神さまは私たちの働きを通じて献身者を生み出そうとされるかも知れない。そこで「フランシスコの平和の祈り」にヒントを得て、「献身者を生み出す壮年の祈り」なるものを試作してみた。この祈りをアレンジして、各教会・各自で献身者のことを覚えて祈っていただければ幸いである。

以 上

伝道者養成・教会形成プロジェクト

「献身者を生み出す教会」

プロジェクトメンバー

今井 公彦（中部連合）

北村 慎二（関西連合）

松田 裕二（中国・四国連合）

大城戸一彦（全国壮年会連合）

「献身者を生み出す壮年の祈り」

(「フランシスコの平和の祈り」バージョン)

主よ、わたしをあなたへの献身者を生み出す道具としてください。

「不安」のあるところに、ひとりでないからと寄り添う心を与えてください。

「恐れ」のあるところに、みんなで祈り合い、励まし合う、執り成しの祈りを置かせてください。

「不完全」の思いのあるところに、一緒に整えられていく恵みを求めさせてください。

「疑い」のあるところに、牧師と協働する姿を通して、信頼を得させてください。

「絶望」のあるところに、「希望」を置かせてください。

「暗闇」のあるところに、一緒に「光」を求めるものとしてください。

「悩み」のあるところに、一緒に分かち合い、主の導きを祈るものとしてください。

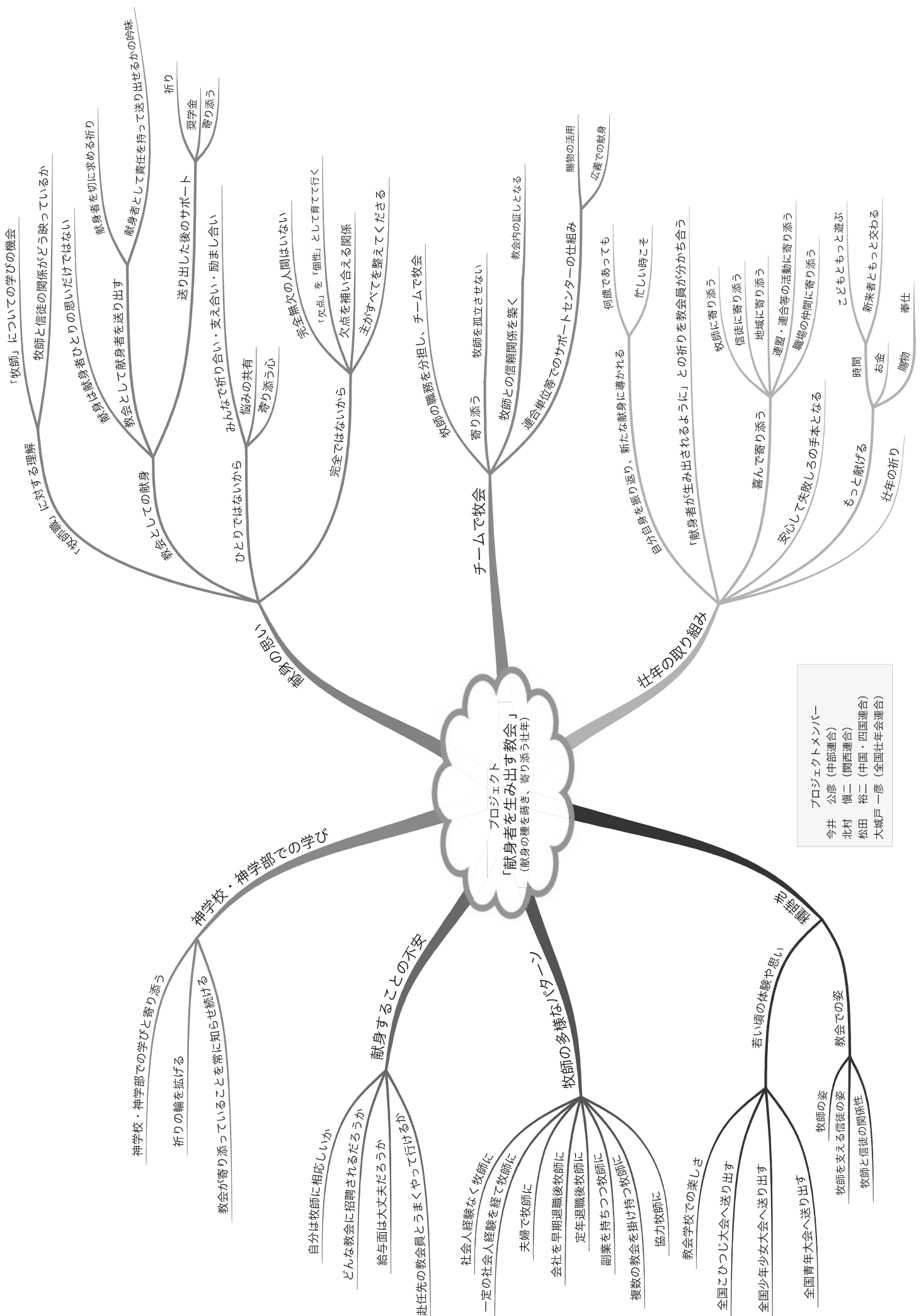
主よ、人を促すよりも促され、力づけるよりも力づけられて、

自分を献身の決意を求めるものとしてください。

なぜならば、与えることで受け取り、小さなものとなることでかえって見いだされ、

ひとの良さを認めることで自分に良さが備えられ、

自分の身をささげることで永遠の命に与ることとなるからです。



- プロジェクトメンバー
 今井 公彦 (中部連合)
 北村 健二 (関西連合)
 松田 裕二 (中国・四国連合)
 大城戸 一彦 (全国壮年会連合)

分団 B

プロジェクト新任牧師と協働する教会報告 ～新任牧師が早期に辞任（離職）する事象を捉えて～

報告者 北九州地方連合
梅木芳昭（大分）

開催日 2016年10月22日（土）11:00～14:10

2017年1月14日（土）11:00～14:15

場所 大分キリスト教会

出席者 北九州・梅木芳昭兄（大分）、福岡・三室日郎兄（西南学院）、西九州・中島（大川）
南九州・曾根基雄（児湯）

陪席者 須藤伊知郎先生（西南神学部）、井伊肇兄（全国壮年会連合書記）、村田悦牧師（大分）
齊藤弘司（北九州宣教支援センター・記録）、川内光（福岡地方連合会長）

1 経過

2回の協議と1度のシンポジウムを九州四地方連合主催、神学部共催で行いました。

2回目の協議の際に主題である「新任牧師と協働する教会」がほとんど協議されずに副題の「早期に辞任」ばかり協議されたので主題に添い「新卒牧師を迎える教会の協働」と題を変え九州四地方連合主催でシンポジウムを開催いたしました。

2 内容

1 発題：梅木芳昭

第1回目協議の際に、全国壮年連合ニュース 86,87,88号「バプテストにおける伝道者養成」、松見享子宣教研究所員研修会講師の（きたかん壮年会研修会、記事）で全国に配布されたもので、皆さまの知ることから記載いたしました。

【要約】2010～2014年新任牧師で連盟諸教会に赴任した2割が辞任、更に5年さかのぼっても大体2割の辞任、1年以内の辞任の増加とあります。課題として5つを上げています。

（注・正式資料ではない、牧師就任前研修受講者のみ資料のため）

- ① 「バプテスト理解の課題」
- ② 「コミュニケーションの課題」
- ③ 「献身理解の課題」
- ④ 「神学する力」の弱まり
- ⑤ 「伝道者を育てる教会の課題」

・牧師になると決心して“2割が辞任する現状”は何が原因か、壮年は分析する必要があると思います。

2 発題：村田悦牧師（大分）「新任牧師の働きを通して気付いたこと」

1) 新任牧師と教会の協働は、2013年度の神学部ミッションデーのテーマであった。

2) 大分教会でのここ2～3年の歩みを通して、対話することの大切さを思わされている。

- 3) 対話のAspect・・・来会者との対話／神学との対話／聖書との対話／聞き手との対話
- 4) 毎週の礼拝も、牧師が講壇から一方的に語るだけでは宣教にならない。
- 5) 牧会上における日々の出会い、相手との関係が、語る言葉に大きな影響を与える。
 - 着任当初と今とでは、聖書を語る言葉が変わってきていると思う。それは聴衆が一番気付かされているのではないか。
- 6) 牧師と信徒との信頼関係 どちらも一方的ではない。
 - お互いに要求するだけでなく、いかに関係性を構築することができるか。

3 須藤伊知郎先生（西南神学部）「新任牧師と協働する教会」伝道者養成の現場から
 ここ 10 年以内に西南神学部を卒業（修了）して、専ら伝道の業に従事する働きに就いた者は 77 名。そのうち 3 年以内に辞任した者は 14 名（14 名中 6 名は次の奉仕先に赴任している）。 $14 \div 77 = 0.182$ 10 年以内の卒業者に占める早期辞任の割合 18.2%

- ・課題は大きく分けて、以下の 4 つに分類できる。
- 1) 赴任する者の課題と赴任先の教会の課題
 - ・赴任する者の課題 召命観が不確か。コミュニケーションを取るのが苦手。
 - ・赴任先の教会の課題 共に育つという視点の欠如。律法的に裁いてしまう。
- 2) 献身者としての自覚／送り出す教会の姿勢
 - ・自己実現が目的である場合、赴任先で行き詰まるケースが多い。
献身者本人の自己実現／推薦した牧師の自己実現
 - ・推薦教会の自覚があるかどうか。
神学校に送り出して終わりではない。献身を問い直していく役割がある。
- 3) 神学的な不一致
 - ・赴任先の教会が求める牧師像や教会観が合わない場合、なかなか続かない。
 - ・場合によっては辞めた方がお互いのためによいこともある。
→ 赴任する時点でのすり合わせが大切。
- 4) バプテスト教会の在り方・理解の問題
 - ・バプテスト教会は任命制でなく招聘制
→ 教会・伝道所が、形式上は雇用主になっている。
 - ・「牧者」を招聘するという視点が大切
→ 私たちが雇っているという発想では、牧者を立ててはいえない。
教会員一人一人も神様から派遣されているという意識を持っているかどうか。

3 発題についての応答

- 1) 新任牧師の早期辞任という事象について
 - ・早期辞任の背景に、教会を支えようとしなない・育てようとしなない壮年の課題があるのではないか。
 - ・招聘してから「こんなはずではなかった」と言うような問題が生じてしまうと、継続が難しくなる。
 - ・会話が少ないことによって誤解が生じることもある。対話することが大切。
 - ・教会を生み出すスピリットを持った献身者が出てきて欲しい。

- ・牧師の任期制について、3年～5年で何ができるのかという問いが諸教会の中に生まれてきている。
(任期制を外す教会も出てきている。)
- ・牧師の側から任期の問題を切り出されて、信頼関係が揺らいでしまう場合もある。

4 結び

- 1) 「新任牧師と協働する教会」のプロジェクトは簡単に言える事柄ではなく早期辞任の背景に、教会を支えようとしないうち・育てようとしないうちの課題があるのではないかと考えるべきではないかと思えます。
- 2) 新任牧師が早期に辞任（離職）する事象は新任牧師に限られません。教会をはじめ多くの方が傷つきます。そのことが神学校献金に当然、影響してくることは明白ですね。壮年の課題と言えます。
- 3) 牧師になると決心して“2割が辞任する現状”は何が原因か、壮年は分析する必要があるのではないのでしょうか。

※「新任牧師と協働する教会」のプロジェクトは簡単に提言できる内容ではありません。これから色々な機会に協議されることを希望します。

5 新卒牧師を迎える教会の協働シンポジウム報告

開催日 2017年3月20日（月・休）13:00～16:00

場所 西南学院バプテスト教会、参加者 75名、会費 500円

※（全国壮年連合より活動費5万円を頂く。）

発題者 須藤伊知郎神学部長、村田悦牧師、梅木芳昭、加藤誠牧師

（2回の新任牧師と協働する教会プロジェクトを発題とした内容は省きます。）

発題1：須藤伊知郎神学部長

- 1) 実践神学のだ真ん中の問題です。
- 2) 自己実現が目的の場合（夢を叶えたい、立派な牧師になりたい）行き詰まる。
- 3) 推薦した教会は問い続ける。
- 4) 未熟な者が来る（即戦力を求めてしまう。育つのを待つ。）

発題2：村田悦牧師「なぜ私が、3年間、牧師として立つことができたのか」（大分教会就任3年目）

- 1) 頑張ったというより頑張らなかつたから、助けられることの大切さ。（土曜日の庭清掃の際、まだ説教準備ができてなかつたら、清掃はよいから準備するように言われた。（この赦しがあるからこれまでこれた。）牧師も出来ることと、できないことで出会わされることがある。弱さ、欠けで教会が形成される。
- 2) 弱さを力に。（出来ないことも大事。解放される。）
- 3) 立てられてこそその牧師。（就任後に按手の学びで何を委託されたかがはっきりできた。神によって、大分教会に立てられた。）
- 4) 相談相手。（良き相談相手がいる同期の者、先輩、と家族が居ることで教会の関係が良くなる。）
- 5) 継続研修。（神学校卒業してから新しい学びのスタート、西南神学部、九バプは研修の機会を与えてくれる。）

発題3：梅木芳昭（大分教会員）

プロジェクト 2 回の報告をして、新卒牧師を迎える教会の協働で村田悦牧師を迎えるまでの経過と大分教会の状況・特徴から、村田牧師の特徴を発題いたしました。

- 1) 経過。西南学院大学神学部報 50 号記載の「私の教会像」村田悦神学生の記事が大分教会の求める教会像と一致して第一候補となって交渉に当たりました。
- 2) 大分教会信仰告白 2011 年、ミッションステートメント 2013 年を作成できたことは牧師招聘時の教会姿勢を示すのに役立った。
- 3) 村田牧師就任後「子供礼拝」を始められ、特伝には新聞折り込み、ポスティングを始める事ができた。
- 4) 特徴。50 歳代が 80%を占めます。(平均年齢 63 歳、現状分析に「教会診断プログラム」を用い現状分析と将来目標を立てて行きたいと思っています。
※「教会診断プログラム」は北九州地方連合・宣教支援センター中心に作成したもの。
- 5) 祈祷会。聖書の学びの参加者が多く求道者を含め 15 名前後（現会員 57 名）楽しみです。

発題4：加藤誠牧師「バプテスト教会」になりたい。

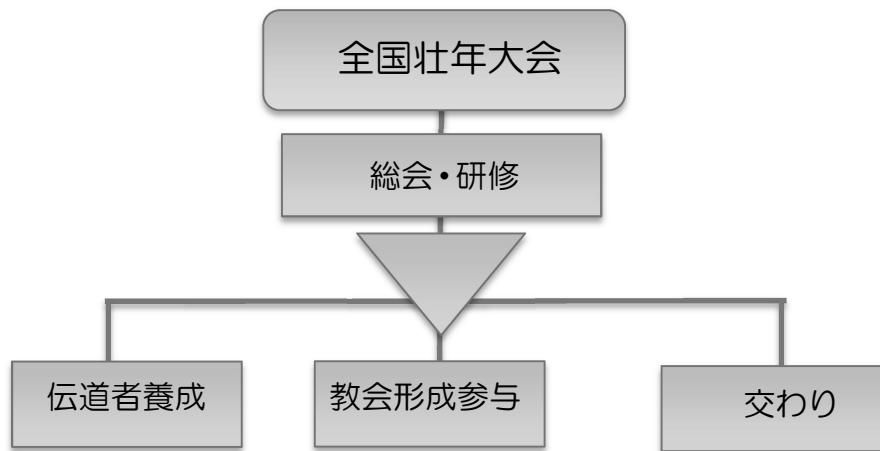
序、「新卒牧師」を迎える機会、貴重な学びの機会！

- 1) 「バプテスト教会」になりたい。
 - ・組織として一番めんどくさい：自分の意見が通らないことを喜ぶ。
 - ・自由だが、一人ひとりの主体的意思を尊重するゆえに、運営が大変な組織。
⇒教会員一人ひとりの継続的学びと成熟が求められる。
 - ・成熟？ … 不断の意識化、忍耐、み言葉と祈り
⇒教会はあっという間に「楽」な方向に流れる。「楽」だと思ったら黄信号。
- 2) 牧師の招聘
 - ・新卒牧師を迎える：大変であるけれど良いチャンス機会：教会がバプテストになっていく。
(皆で学んでいこう)
 - ・「教会の主体的決断（継続的祈り）＋牧師自身の召命」によって成立
⇒招聘「前」の学び、招聘「後」の学びと点検：学び続ける。
⇒一人ひとりの言葉になっていくには、時間がかかる！
 - ・牧師の召命は常に教会の吟味を受けるが、同時に教会も吟味を求められる。
⇒祈祷会、礼拝に出ていない教会員の「批判（非難）」は「評価」とは言わない。
- 3) 牧師の仕事
 - ・失敗をしながら、生涯学び続ける仕事。
 - ・「10 年、20 年経験したから大丈夫」はない。自分をどう崩せるか。
- 4) 教会員（執事）と牧師の協働
 - ・互いの働きを尊び合う「祈り」。：牧師には何を、まず自分たちが立つ。
 - ・どんなことも「教会形成」の材料にする。面白い！ユーモア！
 - ・大きなところで一致して、小さなことは自由に、すべては愛をもって。
 - ・違うからこそ「共に」。その「共に」は聖霊の働きのなしに成り立たない！

夏の全国壮年大会から10ヶ月で2回の協議と新卒牧師を迎える教会の協働シンポジウムを九州四地方連合主催、神学部共催で開催できましたこと感謝し報告させていただきます。新任牧師と協働する教会は「私たちバプテスト」の基本的問題である。「牧師の招聘と教会形成」を学びましたが、壮年が中心に立ち「神学生を育てる責任」を強く感じます。 在主。

分団C 「全国大会開催の方法」(壮年大会をデザインする)

1. 全国壮年大会を理解してね



質問です

これまでの全国壮年大会は面白かったでしょうか。
ためになりましたか。
また来ようと思いましたか。
美味しいものはありましたか。
新しい発見はありましたか。
若い壮年のメンバーを誘いましたか。
あなたはモヤモヤ、うずうずしていますか。

WGの答申

ワーキンググループの答申 (2012年3月1日)

答申のポイントは4つ。

- ①研修したい
- ②総会を短く開催したい
- ③交わりを喜ぶたい

④議案書を簡潔にしたい



答申に賛成するか →N/Y

ポイントの深読み

①研修したい

- 本当は遊びたいのではないか
- 研修内容がつまらないのではないか
- 不勉強の者を教育したい（研修の目的は他者）

②総会を短く開催したい

- 聞くだけでストレスが溜まる
- 何を話しているのか分からない（当事者意識を持ってない）
- 夏休みなのでゆっくりしたい

③交わりを喜びたい

- 友だちがいない
- 教会以外の人と話すのが苦手
- 友だちになりたくない人が多い

④議案書を簡潔にしたい

- 何が書いてあるか分からない
- 帰るときは身軽がいい
- 議案書の厚さが時間と連動する（議題が多い）

研修と学び

全国から集まって、何を学んで帰るか。

学びの実態（頻度・内容・予定）

- 教会
- 連合
- 連盟
- 壮年大会

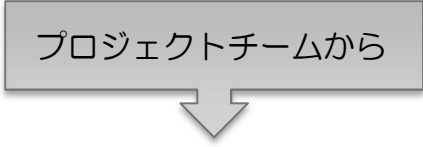
壮年大会のプログラム（内容）

「アピール」はアピールになっているのか（必要か・聞きたいか）

三神学校紹介のあり方（必要か・虚礼になっていないか）

会場をどこにするか(西南学院で開催する意義)

プロジェクトチームから



- ①日程の拡充と実行委員会の補強
- ②地方連合実行委員会の協力と連携
- ③大会プログラム工夫で多くの参加者を図る

分団D

「奨学金制度の充実」のご案内

奨学金委員長 篠田 裕俊

栄光讃美

いつも神学生を覚えて祈り、支えてくださり感謝申し上げます。

私たちは、奨学金制度の充実を検討するにあたって、2012年3月1日「全国壮年会連合活動に関するワーキング・グループ」から答申された『今後の全国壮年会連合活動について』における奨学金制度運営に関する課題を確認することから始めました。また、奨学金制度の充実が伝道者の掘り起こしと養成につながることを願い、併せて、奨学金制度充実のためには、神学校献金の推進が必要あることも確認しました。

ここに、皆様へ奨学金制度の充実として次の通り提案いたします。ぜひ、一人でも多くの方に参加していただき、一緒に祈り考えて行きたいと思います。

主に感謝して

奨学金制度充実のための提案

- 1 奨学金給貸与期間の弾力的運用について
- 2 連合立等神学校の神学生への図書援助費について
- 3 伝道者養成に従事する教員の後継者養成について
- 4 奨学金返還免除の見直し
- 5 卒業延期中における伝道の業の従事期間について

分団D「奨学金制度の充実」— 資料 —

I. 奨学金について (2017年度)

1. 1人当たりの年間奨学金

(1) 1種奨学金 (貸与)

(単位:円)

区 分	授業料	施設費	教育充実費	合 計
学部・専攻	750,000	170,000	40,000	960,000
大学院	576,000	130,000	0	706,000

(2) 2種奨学金 (給付)

(単位:円)

共 通			加 算	
単身者寮費	図書援助費	合 計	配偶者	子ども(1子当たり)
310,000	30,000	340,000	240,000	60,000

【参考】年間授業料の80%を貸与 (運用については、各神学校の規程による)

東京バプテスト神学校 160,000円

九州バプテスト神学校 120,000円

2. 卒業までの奨学金総額

(単位:円)

区 分	1種(貸与)	2種(給付)	合計	2種加算(給付)	合計
専攻科	2,880,000	1,020,000	3,900,000	900,000	4,800,000
大学院	3,332,000	1,360,000	4,692,000	1,200,000	5,892,000

3. 返済額

(単位:円)

最終学歴	貸与額	返済額
専攻科	2,880,000	576,000
大学院	3,332,000	666,400

※ 伝道者として4年以上務めた場合、貸与額の20%を10年間で返済

※ 伝道者期間が4年以内又は伝道者に従事しない場合、貸与全額を8年間で返済

Ⅱ. 2012年3月にWG『今後の全国壮年会連合活動について』における
「伝道者養成のために資する奨学金制度運営の再構築」の課題

1. 職務の評価と課題の明確化

- (1) 制度面、実務面での評価
- (2) 今後取り組まなければならない課題の認識と連盟との共有化

2. 伝道者養成に資する制度とするための壮年会連合としての役割、責任の明確化

(1) 奨学金制度（体系）の再構築

- ①連盟における「奨学金委員会」の位置づけ
連盟の機構図では、奨学金委員会は理事会と点線でつながっている。
- ②連盟における奨学金制度運営に関する諸規程の位置づけ
規程は、理事会の意向を徴したうえで壮年会の総会で決定する。
- ③委託先である壮年会連合の参与の仕方

(2) 資金（神学校献金）管理範囲の明確化

- ①伝道者養成の業への効果的資金活用の仕組み検討
本来の所管元である連盟が伝道者養成に資する基金（資金）として効果的に運用できるようにあるべき仕組みを検討する。

(3) 業務委託契約書の締結

- ①委託業務内容の明文化と締結
- ②本制度を伝道者養成の業として機能させるための連盟との棲み分け明確化
- ③壮年会連合の受託の範囲は“運営実務に徹する”との方向付けが基本

(4) 適正な委託料金の設定

- ①現行の「神学校献金額10%以内」の是非検討
- ②奨学金制度運営実務に特化した適正費用の算定

(5) 奨学金貸与範囲の検討

- ①連合立神学校も含め伝道者養成のため貸与範囲の拡大

Ⅲ. 奨学金制度充実の提案についての補足説明

1. 奨学金給貸与期間の弾力的運用について

現在の奨学金規程は、奨学金の給貸与期間は4年間、しかも、学部は2年間（2年時編入の場合3年）、専攻科は1年、大学院は2年と定められています。神学生は、神学部へ転編入する際に、出身大学等で取得した科目の認定が行われますが、その認定は個人差があります。そのために、科目認定が認められなかった科目は履修しないとなりません。なぜなら、卒業までに履修すべき科目が決まっているからです。そのため科目履修に追われてしまって、神学の学びの時間が十分に取れない場合もあります。

そこで、学部・専攻科・大学院での期間制限を撤廃し、奨学金給貸与期間を最長4年間とすることを提案いたします。

2. 連合立等神学校の神学生への図書援助費について

2017年度より西南学院大学神学生に対して、図書援助費3万円を給付することになりました。しかし、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校で学ぶ神学生に対しては、授業料の8割のみが貸与されるだけで、図書援助費の給付はありません。

図書援助費は、神学書等の多くが高価であることから、その支援を目的としたものです。東バプ、九バプの神学生も、西南大神学生と同じ献身者であることから、東バプ・九バプの神学生にも図書援助費を給付することを提案いたします。

ただし、西南学院大学神学生と金額を同額とするかは検討が必要だと考えています。

3. 伝道者養成に従事する教員の後継者養成について

神学部教員の後継者養成は、神学部及び連盟において大きな課題となっています。全国壮年会連合の働きとして伝道者養成があり、このことに従事する神学部教員の後継者養成もその働きに含まれています。そこで、その働きのための奨学金の新設等を提案します。

4. 奨学金返還免除の見直し

1種奨学金は、卒業後4年以上伝道の業に従事したものは8割免除、それ以外は全額返済となっています。しかし、短期間であっても伝道者の業に従事していることから、伝道者の業に従事した期間が4年未満であっても、その期間に応じて免除することを提案します。

5. 卒業延期中における伝道の業の従事期間について

現在の奨学金規程は、卒業後に伝道者の業に従事した期間のみが、奨学金免除の算定対象期間と定められています。そのために、在学中に伝道者の業に従事している期間（卒業延期のまま牧師等に赴任しているケースが多い）は、認められていません。

しかし、その期間も伝道者の業に従事していることから、奨学金免除の算定対象期間として取り扱うことを提案します。

ただし、卒業して伝道に従事した者と同じ取り扱いでよいかは、検討が必要だと考えています。

IV. その他（委員会では、次のことも協議を行いました）

1. 中途退学者の取り扱いについて

多くの奨学金が貸与型から給付型に移行している中、神学生奨学金も給付型を目指すことはできないのか。また、召命感の喪失等、様々な事情で神学の学びを止めて退学したくても、奨学金返済を考え退学できないこともあり、奨学金返済について考慮できないか。

2. 推薦教会を研修教会とすることについて

神学生は、神様からの召命を受け、全国の教会・伝道所に仕えるために神学部で学びます。私たちは、神学生奨学金献金によって、神学生の学びと生活を支援しています。そのために、最初から推薦教会で仕えることを、神学生奨学金献金の趣旨に反するのではないか。

3. 協力牧師の取り扱いについて

現在、協力牧師の期間は原則として、奨学金免除算定期間として認められていません。しかし、協力牧師も伝道者の業に従事した者であり、奨学金免除算定期間として認めても良いのではないか。

4. 財政基盤が弱い推薦教会の負担軽減について

多くの教会が、連盟が定めている牧師給を給付できていない現実があります。そのため、奨学金返済を考えて本人及び推薦教会が召命にたいして躊躇することがあるのではないか。そこで、例えば極端に低い牧師給の場合は、奨学金の返済額の軽減、返済期間の延長等を検討できないか。

5. 奨学金給貸与条件の見直し

神学生は卒業後 10 年かけて奨学金を返済しています。そのために、高齢者に対して奨学金を貸与することは、推薦教会及び本人に負担を課すことにもなるのではないか。そこで、例えば、奨学金対象年齢を設けるなども検討してはどうか。

6. 女性連合奨学金について

女性連合には、女性神学生を対象とした年間 24 万の奨学金制度があります。ジェンダーが問われているなか、女性神学生だけを対象としてよいのか。また、女性連合奨学金制度を参考に制度の充実・改善できるものがあるのではないか。

7. 事務局体制の充実と事務負担の見直しについて

現在、壮年会連合事務として非常勤 1 名が勤務し、壮年会連合、奨学金事務を担当しています。しかし、その負担は大きく、増員や業務内容の見直し等を行うべきではないか。特に奨学金事務を見直すことで、事務負担を軽減できるのではないか。

V. 今後の進め方

2017 年度	奨学金制度充実の提言についての意見交換
2018 年度	具体的な案について協議し、それぞれについて賛否を問う
2019 年度	賛同された案を反映した規程の改正案について審議
2020 年度	改正規程による奨学金制度の運用と継続事項についての検討

分団 E

「神学校献金（神学生奨学金献金）」の推進

神学校献金推進委員

「地方壮年連合内での神学校献金推進委員の働きを共有し、
いかに壮年は神学校献金（神学生奨学金献金）推進に取り組むのか」

- 資料 ・「神学校週間のしおり（神学校週間によせて）」
・「神学校献金推進のための三つ折りパンフレット」

わたしたちバプテストの群れは、一人でも多くの牧師や伝道師、教会主事や音楽主事などの献身者が起こされるように、また、現在学びの中にある神学生たちが神学校（西南学院大学神学部学生、東京バプテスト神学校専攻科、九州バプテスト神学校牧師コース）において十分な研鑽が積むことが出来るようにと、覚えて祈っています。具体的には神学校献金（神学生奨学金献金）を全国に呼びかけています。

この活動の主な担い手である壮年の働きは、全国壮年会連合における活動方針の大きな柱である「伝道者養成への参与」、さらに「教会形成を担う壮年の働きの推進」そのものと言えます。だが、その取組にはいくつかの課題もあります。

教役者が足りない現状を前にして、わたしたちは、西南神学生の奨学金貸与者が毎年 25 名以上になるように献身者を送り出すという働きのために、神学校献金（神学生奨学金献金）目標額を 3 千万円に設定しています。しかしながら、2,005 年に目標額を 3 千万円として以来、2005 年の 2,498 万円をピークに未だその目標額は達成していないという現実があります。さらに、全国の地方壮年連合内に立てられた神学校献金推進委員の働きが、多くの教会、伝道所に十分に知られていない、あるいは理解されていないのではないかという現実もあります。

他にも課題があると思いますが、分団では、わたしたち一人ひとりが神学校献金推進委員の働きを覚え、その働きに積極的に関わり、共働するにはどうしたらよいか、おおいに意見を出し合い、互いの思いを共有したいと思います。

また、未だ目標額を達成できない痛みを共有しながら、目標額に近づく道を探してみたいと思います。

壮年の課題共有の時間

分団A 献身者を生み出す教会

登録 No.	氏名	代議員 表示	教会略称	地方 連合	A	1号館2階 ラウンジ-1	1号館2階 ラウンジ-2
					献身者		
					27	グループ1	グループ2
3	天野有		西南学院大学	その他	1	○	
4	松田裕二	代議員	道後	中四国	1		○
7	小林慎之介	代議員	水戸	北関東	1	○	
14	日原広志		西南学院大学	その他	1		○
15	岩田浩司	代議員	赤塚	東京	1	○	
18	本多英一郎	代議員	三島	西関東	1		○
22	森 淳一		高崎	北関東	1	○	
30	大城戸一彦	代議員	西川口	北関東	1		○
48	坂本 献	代議員	所沢	北関東	1	○	
51	金丸英子		西南学院大学	その他	1		○
53	原田賢		西南学院大学	その他	1	○	
66	清水紀男	代議員	北大阪	関西	1		○
68	北村慎二	代議員	宝塚	関西	1	○	
71	前野惇	代議員	前橋	北関東	1		○
73	角田誠	代議員	前橋	北関東	1	○	
79	菊岡義修	代議員	東八幡	北九州	1		○
84	高橋貴	代議員	長崎	西九州	1	○	
87	松藤一作		日本バプテスト連	その他	1		○
92	川内 光	代議員	福岡城西	福岡	1	○	
98	鈴木武史	代議員	花野井	東京	1		○
105	久賀英男	代議員	香住ヶ丘	福岡	1	○	
114	浦照光	代議員	浦和	北関東	1		○
119	二見眞義		浦和	北関東	1	○	
122	竹下達也	代議員	恵泉	東京	1		○
126	長谷幸雄	代議員	各務原	中部	1	○	
128	天野英二	代議員	宇都宮	北関東	1		○
130	大島博幸	代議員	ふじみ野	北関東	1	○	
132	後藤文之		筑波	北関東	1		○

壮年の課題共有の時間

分団B 新任牧師と協働するする教会

登録 No.	氏名	代議員 表示	教会略称	地方 連合	B	2号館1階 ラウンジ	2号館3階 ラウンジ	2号館3階 ラウンジ
					新任牧師			
					41	グループ1	グループ2	グループ3
10	鯉淵登		水戸	北関東	1		○	
11	梅木芳昭	代議員	大分	北九州	1	○		
16	高市和久	代議員	市川八幡	東京	1		○	
23	長尾誠	代議員	太田	北関東	1		○	
24	広越俊昭	代議員	太田	北関東	1			○
26	井伊肇	代議員	日立	北関東	1		○	
29	豊永義典	代議員	川崎	神奈川	1	○		
31	高松隆幸	代議員	西川口	北関東	1			○
32	戸田浩司	代議員	西川口	北関東	1	○		
36	仙敷正俊	代議員	瑞穂	中部	1	○		
40	篠谷輝俊	代議員	新潟主の港	北関東	1		○	
41	皆川民男	代議員	新潟主の港	北関東	1			○
42	渡辺弘	代議員	新潟主の港	北関東	1	○		
45	松見俊		西南学院大学	その他	1	○		
52	加山献		西南学院大学	その他	1		○	
54	伊藤真嗣		西南学院大学	その他	1		○	
56	渡邊憲一	代議員	福島主のあしあ	東北	1	○		
58	丸山勉	代議員	川越	北関東	1			○
59	飯塚岳夫	代議員	川越	北関東	1		○	
61	蒲池正明	代議員	大井	東京	1		○	
62	加藤誠		大井	東京	1			○
64	松井清		洋光台	神奈川	1		○	
76	勝呂祐康	代議員	目白ヶ丘	東京	1	○		
78	石倉央	代議員	広島	中四国	1			○
80	斎藤弘司	代議員	東八幡	北九州	1	○		
81	小林洋一	代議員	長住	福岡	1			○
83	三室日朗	代議員	西南学院	福岡	1		○	
86	吉高叶		日本バプテスト連	その他	1	○		
88	久保公平		日本バプテスト連	その他	1			○
89	大内徹志	代議員	飯能	北関東	1	○		
90	神野修	代議員	飯能	北関東	1		○	
95	足立智幸	代議員	宮原	北関東	1			○
99	的埜泰典	代議員	南名古屋	中部	1		○	
102	武井邦夫	代議員	高松太田	中四国	1		○	
103	中島一弘	代議員	大川	西九州	1			○
106	古川光男	代議員	相模中央	神奈川	1			○
120	山中臨在		浦和	北関東	1	○		
123	片山寛		西南学院大学	その他	1	○		
127	諏訪正輝	代議員	東海	北関東	1	○		
137	長尾直	代議員	豊橋	中部	1			○
113	中村熙	代議員	若松	北九州	1			○

壮年の課題共有の時間

分団C 全国大会開催の方法（壮年大会をデザインする）

登録 No.	氏名	代議員 表示	教会略称	地方 連合			
					C	2号館1階 ホワイエ	2号館1階 談話室
					壮年大会	進行:山田 L:向井田	進行:石井 L:北村
					25	グループ1	グループ2
13	飯野實	代議員	宮原	北関東	1	1	
25	石井努		太田	北関東	1		1
35	岩ヶ谷吉範	代議員	経堂	東京	1		1
37	小河義伸	代議員	仙台	東北	1		1
38	向井田 洋	代議員	仙台	東北	1	1	
39	八巻正之	代議員	仙台	東北	1	1	
46	秦健一郎		所沢	北関東	1		1
47	松永政弘		所沢	北関東	1	1	
50	中尾政昭		所沢	北関東	1		1
57	山下誠也	代議員	川越	北関東	1	1	
60	山田誠一	代議員	大井	東京	1	1	
63	森 三樹	代議員	洋光台	神奈川	1	1	
67	稲川仁	代議員	宝塚	関西	1	1	
69	古田晴彦	代議員	宝塚	関西	1		1
70	水尾謙作		前橋	北関東	1		1
100	西脇慎一	代議員	神戸	関西	1		1
101	田矢廣司	代議員	堺	関西	1		1
107	長妻克彦	代議員	古賀	福岡	1		1
108	星田恒	代議員	品川	東京	1	1	
110	山内章彦	代議員	四日市	中部	1	1	
116	衣笠輝夫	代議員	浦和	北関東	1		1
121	久場俊男	代議員	恵泉	東京	1	1	
125	北村賢	代議員	百合丘	神奈川	1		1
129	竹内一夫	代議員	宇都宮	北関東	1	1	
136	小林大記	代議員	豊橋	中部	1		1
	計				25	12	13

壮年の課題共有の時間

分団D 奨学金制度の充実

登録 No.	氏名	代議員 表示	教会略称	地方 連合	3号館チャペ ル
					D
					奨学金制度
					16
6	篠田裕俊	代議員	田隈	福岡	1
9	加山彰一		水戸	北関東	1
17	鳥飼好男	代議員	市川八幡	東京	1
27	安里耕二	代議員	川崎	神奈川	1
43	山本長邦	代議員	名古屋	中部	1
44	富士栄 勲	代議員	名古屋	中部	1
55	笹川均	代議員	上尾	北関東	1
72	奥田稔		前橋	北関東	1
77	梶井義郎	代議員	高松常磐町	中四国	1
82	相模裕一	代議員	西南学院	福岡	1
94	伊東信吉	代議員	大富	東北	1
104	前坂昌広	代議員	春日原	福岡	1
109	堤秀幸	代議員	品川	東京	1
111	濱野道雄	代議員	西南学院大学	その他	1
118	廣島尚		浦和	北関東	1
124	田口昭典	代議員	金沢	中部	1

分団E 「神学校献金（神学生奨学金献金）」の推進

登録 No.	氏名	代議員 表示	教会略称	地方 連合	1号館チャペ ル
					E
					献金推進
					14
2	野口正俊	代議員	志村	東京	1
8	加山文規		水戸	北関東	1
12	村上信雄	代議員	大分	北九州	1
19	粕谷郁夫	代議員	三島	西関東	1
20	大谷元光	代議員	高崎	北関東	1
21	高井透	代議員	高崎	北関東	1
28	中村恭宣	代議員	川崎	神奈川	1
65	酒井俊一	代議員	北大阪	関西	1
85	曾根基雄	代議員	児湯	南九州	1
97	左京信雄	代議員	花野井	東京	1
115	岡田利男	代議員	浦和	北関東	1
117	原田潔		浦和	北関東	1
135	田口清吾	代議員	岐阜	中部	1
138	瀬戸口憲二		浦和	北関東	1

2017全国壮年大会 分団発表まとめ
A-1グループ 「献身者を生み出す教会」

マインドマップに基づき、プロジェクトで検討された意見、論点をリーダーより説明した後、出席者全員から意見をいただいた。

現役の牧師の方、神学生の方、社会人の方、それ以外の方など、さまざまな立場の方が一同に会して、意見を交わせたことは大変有意義であり、全国大会ならではの良さだと思った。

多面的な観点からこのテーマを考えてみようということでマインドマップを作成したこともあり、本分団でも多様な観点からの意見・感想が述べられた。約60分という時間的制約もあり、意見を集約するところまでは至らず、各々が一巡して意見を述べ、話しは拡散したままの閉会となったが、何かを決議するという主旨ではないので、多様な観点から考えることが必要ということを共有できただけでも成果があったと思う。

【分団で出された主な意見】

- ①献身を牧師になるという狭義の意味あいではとらえるのではなく、ひとりひとりがどうやって教会に仕えて行くということをみんなで考えることも必要。
- ②教会での奉仕で触発され献身に至った人もいる。献身者となった先輩の姿を見て自分も触発されるといい好循環が生まれる教会もある。
- ③牧師は説教によって戦う。説教がすべてだとあえて言いたい。それだけ聖書と格闘するということ。
- ④子どもから大人まで牧師は分かり易い言葉で説教ができないといけない。教会員同士が言い合うことも時には必要。献身者を送り出している教会は成熟した教会。
- ⑤自分も種蒔きをして行きたい。子どもたちへの伝道が重要。
- ⑥キリストを伝えることが献身者には問われる。
- ⑦やはり御言葉を伝える礼拝の瞬間が大切。天城の少年少女大会では、信仰者の出会いがあり、「同世代がイエス様大好きと言っているから私も信じていいのだ」という安心感が芽生える。これが大事。この方を信じていいのだと思われるような生き方を教会はしているか。私はしているか。
- ⑧自分に固まってしまうはいけない。自分を固めていく過程と同時に自分を崩して行く過程が必要。失敗を恐れてしまうが、本当に神さまを信頼しているのか問われる思い。
- ⑨献身者の氏名プレートが掲示されている教会がある。教会の歌が聞こえて来るような説教をしたい。
- ⑩牧師って大変だと言う声をよく耳にする。教会の中だけでなく、外の集会に出かけて行き、出会いと学びを続けるということが大切。
- ⑪昔の青年時代に天城にきて、キャンプファイヤーでの招きに応え、大半が献身を表明した。しかし、その時とは環境が違うので、別の方策を考えないといけない。
- ⑫献身者に寄り添う関係が継続する。献身表明の時に教会の総会で厳しく質疑され、献身表明文を赤ペンで直された。こうした関係性が大切。

(文責：北村慎二 (宝塚教会))

A-2グループ 献身者を生み出す教会となるために

教会

送り出す教会にも覚悟がいる。

神学校へ送り出すとその教会は大きな働き手を失う。

教会の中で日頃から献身できるような環境作りが必要ではないか。

教会全体の献身、教会の事柄として捉えていく駅。

教会が送り出すために何をしてきたかが問われる。こうしたら献身者が出てくるというのはないのではないか。

召命感があってみ言葉に生きる覚悟があれば教会はわかったことで決議すればいいのではないか。

献身者が出るように教会が祈り始めた。

世代間での交わりのあるのが教会。

献身に促されるまで

車のセールスをしていた時神様の声を聴いた。

教会の中で小中学生と話す機会が余りない。仲間同士の楽しかった体験に励まされた。

声をかけてくれる、自然に接してくれる人との関わり合いがあった。

どんな歩みをしててもそこにいることが許されている。

神学校へ行くことを周りから期待されていた。

献身者の資質

成績優秀より打たれ強い人の方がいい。

(文責：松田裕二 (道後教会))

分団 B 新任牧師と協働する教会 1 グループ 記録

参加者 13名

梅木（大分、リーダー）、勝呂（目白ヶ丘）、渡邊（新潟主の港）、山中（浦和）、渡邊（福島主のあしあと）、大内（飯能）、諏訪（東海）、長尾（豊橋）、松見（東福岡）、仙敷（瑞穂）、吉高（市川八幡）、豊永（川崎）、齊藤（東八幡、記録） ※順不同・敬称略

参加者のコメントから

- ◇今回の話し合いの機会に、決められた時間を守ってほしいということ、牧師に伝えることができた。その後、見事に改善した。思いを伝えることの大切さを実感している。
- ◇無牧師になった時、地方連合の諸教会・伝道所からの説教応援に頼る道もあるが、信徒説教を学ぶチャンスであると捉えて、皆で学びながら奉仕した。ところが新しい牧師が着任した途端に、信徒説教を引き受ける者がいなくなってしまった。
- ◇（牧師として）着任してから間もない頃は、教会の課題がよく見えた。2～3年して慣れてくると内部の人間になってしまい、以前のように気付くことが少なくなった。
- ◇新任牧師を迎えて3年。1年目は説教への応答や、教会形成についての助言をよく聴いてくれたが、経験年数が増えるにつれて、素直に聴いてもらえなくなった印象がある。自負のようなものが生まれてきたからなのだろうか。
- ◇2～3年経つと、どの牧師も信徒も、地金のようなものが現れてくるように思う。
- ◇うちの教会の牧師に、全国壮年大会に参加してもらいたいと思う。
- ◇いま7代目の牧師に仕えている。初代牧師、2代目の牧師が辞任するときには、相当なショックを受けた。だんだん慣れてきて「そういうこともある」と思えるようになった。
- ◇28教会で構成する私たちの地方連合に、経験年数5年未満の牧師・主事が9名与えられている。このたび自主的に「若手牧師勉強会」を立ち上げた。だいたい2か月に1回のペースで、説教や教会形成について学び合っている。学びの中身もさることながら、対話の訓練の場として、また孤立を防ぐ場として機能することを期待している。
- ◇バプテストということについての理解が問われる。牧師も信徒も納得の上で教会運営していくことが求められているように思う。

吉高常務理事より

- ◇世代差を越えて「先生」と呼ぶことには、実際のところ様々な思いがある。
- ◇求められるリーダーシップの質が変化している。神学も信仰理解も多様化しており、合意形成が難しい時代になってきている。牧師は謙虚でないと成り立たない。
- ◇いま無牧師の教会・伝道所が31。この中で経常献金300万円以下の教会・伝道所が21ある。これらの教会・伝道所に仕える牧師は、相対的貧困層の現実と向き合いながら、それでも仕えていこうとしている。新任牧師が赴任する場合もあり、その献身の思いを、迎える側がしっかりと受け留めていただきたいと切に願っている。

壮年の課題共有 分団B-2

参加者：三室日朗（西南学院）、加山献（西南学院大学神学部）、武井邦夫（高松太田）、的埜泰典（南名古屋）、松井清（洋光台）、蒲地正明（大井）
高市和久（市川八幡）、岩田浩司（赤塚）、神野修（飯能）、飯塚岳夫（川越）、佐藤光代（大宮）、阿部義孝（筑波）、鯉渕登（水戸）、長尾誠（太田）、篠谷輝俊（新潟主の港）、井伊肇（日立）

テーマ：新任牧師と協働する教会

【事前配布資料を読んだ感想や、自教会の課題などを皆さんからお聞きした。ただし時間の関係でそれぞれのお話を基に交流する時間がなくなった。】

- A：牧会にたずさわっている者として。西南の神学校ニュースなどを読むと、多くの神学生が、優しくてある意味で理想論的な話をしている。実際自分の教会規模（50-60人規模）に来て成長を目指す場合、理想論（優しさ）だけでは、教会の目指しているところと噛みあわないのではないか。赴任する前に、きちんと教会形成について摺合せが必要だろうと思う。迷いでた一匹の羊を捜すという方(神学生)が多いが、残った九十九匹の羊をどう守っていくかといくところも大事である。
- B：新任牧師が赴任した当初は、礼拝堂の前が牧師館であったため礼拝が終ると、さっと牧師館へ行っていたらしく古い教会員から指摘された。また結婚後、お連れ合いも最初は教会員とコミュニケーションがとれずお互いに苦労した。ただ、そういうことを乗り越えてその後、伝道所（現在は教会）を生み出し、今は、神学生を送り出している。
- C：神学校にいる者として、来年卒業を迎えるが、近づくにつれて少し不安もでてくる。入学時は意気揚々と入ってくるが、自分がどこかに招聘され牧師になるのだ、と考えると、本当に自分で良いのだろうかとか、ちゃんとやれるだろうかという思いが少なからず出てくる。勿論不安感だけでなく期待感もあり複雑な心境でもある。神学生同士では、最初は副牧師で、という声も多い。一方で一人でやっという神学生もいる。いずれにしても祈られ支えられなければやっていけないと思う。
- D：現在自分の教会は無牧師。招聘する場合は5人目となる。どのような形で招聘に導かれるかわからないが、このテーマは現実的なテーマであり、資料やこの分団での話合いも参考にしたい。
- E：自教会ではこれまで新任牧師を迎えたのは3人であった。ただ牧師がいるところへ新任で来たので心強かったと思う。なお、献身者として送り出した

教会としても責任があると思う。神学生の時に母教会としてどういうコンタクトを取っていくかなども影響するのではないか。新卒の牧師はベテラン教会員からみると頼りないと思うかもしれないが、牧師として立て、お迎えすることも必要ではないか。

- F：教会にきて約 60 年くらい在籍している。自教会では、主任牧師がいて、さらに牧師を招聘した場合でも、副牧師とは言わずに牧師と言う。自教会ではこれまで、途中で辞めた牧師はいない。引退された牧師はいて、在籍している。ただし名前づけで呼ぶわけにはいかず、〇〇先生と呼んでいる。それは良い位置づけであると思う。時々説教もしていただく。良い関係が取れていると思う。
- G：教会組織して 20 年。初代牧師は、他教会へ招聘されたが、2 代目、3 代目は 6～7 年くらいに自分から辞任。2 年間無牧師であったが協力牧師がいて、自分たちで建て上げる教会づくりを指導いただき、今年牧師招聘に至った。現在教会の会計をやっているが、内々にこもっているのは良くない、牧師にも教会員にも外に出て行ってもらうことが必要。そのための予算も 3 倍になった。信徒と一緒に建て上げていく教会としてのヒントを得たいと思う。牧師を孤独にさせてはいけない。
- H：自教会は 60 年近くになり、この間初代牧師が殆どを牧会。現在は引退され、二人目の牧師は 10 数年目になる。新任みたいな感じではあるが違和感はない。厳しいことは言わず、執事会でもほとんど皆の意見を聞く。現在オープンチャーチをめざし、子ども向けの英会話や、教会周辺の自然観察会などを実施している。新来者も増えている。
- I：事前配布資料は良く纏まっていると思う。自分も神学校卒業後 18 年くらいになる。新卒牧師は厳しい面があって、いろいろな噂も耳にした。先ほど副牧師という話があったが、副牧師の離任率も低いわけではない。二人でやる別の難しさもある。そのようなことをテーマにシンポジウムなどが開かれるようになったのは嬉しい。
- J：今年教会組織した。今は無牧師で信徒説教と二か月に一回前任牧師が説教支援。自分たちの考えを固めていった。新任牧師に過度の期待をしない。人間の歯車として考えると、牧師に来てもらいたい、しかし牧師がすべてではなく、教会の中に新しい牧師を組み込む、というのが良いのではというイメージになっている。お互いに過度に期待しない、緊張しない、ということか。
- K：現牧師が 10 年目。年齢は 66 歳、次の牧師をどうするかという課題がある。自教会はこれまで比較的順調に牧師招聘ができてきた。これまでは、牧会経験者を招聘してきたが、新卒の牧師を招聘するとした場合は、現牧師に指導していただくとか、教会員と一緒に育てていくとかいう課題が出てく

る。そのようなことを考える時期にある。

L：3年前から複数牧会となった。壮年会としてどう支えるかが課題である。先ほど話がでたように、孤独にさせない、とすることが大切であろう。資料にもあるように良い所を見るようにし、一人ひとりの教会員を大切にするようにやっていければ良いのかなと思う。

M：良く資料を纏めてくれている。牧師招聘は祈り合って決めるわけであり、主に委ね、コミュニケーションをよくとっていき覚悟でやっていくものだと思う。伝道所の時代が長く、無牧師の時もあり、信徒が自発的やれることもあるので、牧師はすることが沢山あるが、自分たちでできることはやって、牧師には説教や得意なところをやってもらうのが良いのでは。招聘は神さまの業だから、コミュニケーションを良くとりながら、祈ってやっていけばうまくいくと思う。まるごと受け入れる。

N：現教会にきて約 20 年。臨時牧師などもいたので、6～7 人替わった。兼職しながら牧会したことや、信徒だけで牧会したこともあった。現在の年金牧師が来年引退するため、次の牧師を招聘するが、兼職しながらの牧会となる。教会員も新しい方が増え、牧師に対する考え方も古い会員と違うところがあるので、新しい形での教会に運営のやり方についての課題をもっている。壮年会だけのテーマではない。

O：これまで教会員生活を通して

①開拓伝道での牧師と教会員の関係では、バプテスト化するという事で苦勞した。

②招聘での任期設定について。人事はどちらも言いにくい。自教会では招聘時 5 年と期限を設けるが、5 年経ったら入りませんよ、ではなく 5 年が来る前に教会員も牧師も決断しなければならない、そういうチャンスであると捉えている。今は牧師の高齢化もあり 1 年毎に見直している。

③牧師と信徒の信頼関係を良いものにするポイントは、これまでの経験から、大きな要素として牧師の祈りである。祈りによって結び付けられた信頼関係があれば早期離職は防げるのではないだろうか。

④自分は年齢的なこともあるが、「教会のごみ箱」になりたい。そこからは絶対に出さない。外に出さずそこで処理してしまう。

P：自教会も数年すると招聘のことが他人事ではなくなる。皆さんのお話を聞きながら勉強になった。今後も皆さんとお会いする機会もあると思うのでよろしくお願ひしたい。

分団 B 新任牧師と協働する教会 3 グループ 記録

参加者 13 名

中島（大川、リーダー）、広越（太田）、足立（宮原）、古川（相模中央）、小山（筑波）、石倉（広島）、高松（西川口）、古田（宝塚）、丸山（川越）、加藤（大井）、小林（長住）、中村

（若松）、久保（大宮、記録）

※順不同・敬称略

※新任牧師が3年以内に辞任する現況「期待すること」のギャップの有無について発言とそれに対する改善方策の検討

参加者のコメントから

◇牧師招聘：私たちがどのようになりたいのか、それに対してどのような牧師を求めるのか。まずは私たちのビジョン。同じ考え、同じ方向、おまかせは良くない。

◇新任牧師としての意見：事前に人物を知る。同じ地方連合の教会に赴任。

◇神学生を送り出す教会の信徒として：奨学金の返還責任。6月の神学校週間以外の意識下。神学生を励ます会。

◇20名の辞任の理由：招聘責任、牧師を解任する教会の責任がある。

◇2013年から中長期計画で2014年新任牧師招聘し2年任期、教会の働きを広げる。“研修牧師”制度で更新はしない。教会は招聘する場合、忍耐が必要。年代格差、価値観の違いを受け入れる。

※牧師の任期制

◇牧師が病気で休職：説教は交代制でできるが牧会について牧師に期待する。

◇無牧師期間：牧師への期待が多すぎる。牧師は信仰の対象ではない。遺族伝道の必要。

◇1年後の牧師招聘のために主事として事前準備を過ごす但リーダーシップを求められると不安。イエスが共におられる。教会は信徒である→相互牧会。イエスのみ言葉を共に受けて行くこと——牧師との協働。

◇牧師：弱さを言えること、信徒も。教会の課題、信徒の責任、学びの大切さ。

◇牧師の辞任：関係性（コミュニケーション）の欠如。

◇神学生最終面接：みんな不安（できない）、助けてもらう。インターン：教会は重要。

全国大会開催の方法（壮年大会をデザインする）

分団C グループ1（2号館1階ホワイトエ、16:50～18:00、進行：山田、リーダー向井田）

2017年8月25日

稲川仁（宝塚）

- 山田兄より、下記のポイントで問いかけ
 - 今まで（過去5年ぐらい）で行って良かった全国大会は？
 - 2泊3日の善し悪しは？
 - 参加者数は？
 - 少しでも喜んでもらえているか
 - 大震災のときでもやってよいか迷ったが、やって良かった
 - 小人数でも良かった点はあるのかもしれない
 - 総会を3時間かける必要があるかどうか
- 各自発言
 - 面白くするにはどうするか
 - ✓ 現状はわかりやすいのか？ わかりやすければ面白い
 - ✓ 持ち帰り、次につながるステップアップできるような内容がよいのでは
 - ✓ 3,5年後に期待できるように、年ごとに進捗を報告するような課題があると望ましい
 - ✓ 今までの経験を共有する。コミュニケーションをデザインする。(エクスペリエンス・デザイン)
 - ✓ どうすればよいか要検討
 - お盆に実施すれば休みやすい人もいる
 - ✓ お盆はやめてほしいという人ももちろんいる
 - 今の時代に働きながら、ここに2泊3日で来ることは継続できるか？
 - ✓ 昔は景気が良かったが今はどうか？
 - ⇒ 忙しくない人はいない
 - ⇒ 優先順位を上げれるかどうか
 - ⇒ 魅力的で楽しいと思えるようにする必要がある
 - 若者、少年少女が興味を持つような内容でなければ若手を誘いにくい
 - ✓ 行く理由、きっかけがないと難しい
 - ✓ 年齢、年代によってどこに興味があるか、それによって内容を変える必要がある
 - ✓ 全員参加の内容があると望ましい
 - ✓ 女性にも入ってもらい勧誘等も含めて役割を担っていただく
 - 壮年であっても義務感で来ている
 - ✓ 楽しいという感じではない
 - ✓ 仕事を休みにくい。途中参加で入りにくい
 - ✓ みんなでガス抜きをどこかでやらないと難しい
 - 全国大会はだんだん良くなっている
 - ✓ 以前は毎年同じ内容（規約問題）でもめており午前0時までしていたこともあった
 - 目的は、学びと交わり
 - ✓ 総会をコンパクトにする（協議内容はA41枚にする）
 - ✓ 当たり前の報告等は資料配布だけで済ませる
 - ✓ 時間を常識的にすることに努めるべき
 - ✓ 分団を多くしてほしい
 - ✓ 内容が良くできていればよいイメージを紹介しやすく誘いやすい
 - ✓ アピール時間を口頭だけでなく、資料や映像を使って短く効果的にすべき

- ✓ 開会・閉会礼拝は必要
- ✓ 祈会は教会でやっているのをやめるのはどうか

- 神学生にもっと参加してもらう方が良いのでは

- 少年少女会等について
 - ✓ 出会いがある
 - ✓ バプテスト連盟の良いところ

- 壮年会のあり方について
 - ✓ 内容はもちろん、雰囲気も大事

- 釣りが楽しかった
 - ✓ 目玉のイベントが必要（釣りが目玉ではなく学びの面で目玉が望ましい）
 - ◇ 神学校模擬ゼミが良かったが（二つ受講が限度だった）
 - ◇ 悩みが同じであることを確認できる内容でも良い

- 壮年と若い人のテーマは違う
 - ✓ 壮年は終活の話、老人ホームの話がテーマにあってもよいのでは

- 仲間づくりが不可欠な内容
 - ✓ 主催者が飲み会の準備等までするのはどうか
 - ✓ せっかく会場に集まっても各自で食事、飲み会をすることもあるので
 - ✓ 壮年会が変えていき、壮年会でないとできない大会にしたい
 - ✓ 楽しい楽しくないは置いておいて、理念の確立が弱い

- 全国壮年会の役員が主催するのはどうか
 - ✓ 天城⇒地方⇒西南⇒地方⇒天城⇒（繰り返し）

- 次回、仙台について
 - ✓ 東北のことを知ってほしい
 - ✓ バプ同盟、しんせい会を招待し、出会いにチャレンジする
 - ✓ 東北にバプテストが来た時の話を少しでもできれば成功と考えている
 - ⇒ 飲み会やお酒の紹介等、期待していなかったものを出し喜んでもらうのはどうか

以上

壮年の課題共有の時間

分団C 全国壮年大会開催の方法(壮年大会をデザインする) グループ2

《出席》 石井努〔太田〕、岩ヶ谷吉範〔経堂〕、小河義伸〔仙台〕、秦健一郎〔所沢〕、中尾政昭〔所沢〕、古田晴彦〔宝塚〕、水尾謙作〔前橋〕、西脇慎一〔神戸〕、田矢廣司〔界〕、長妻克彦〔古賀〕、衣笠輝夫〔浦和〕、北村賢〔百合丘〕、小林大記〔豊橋〕（敬称略）

《書記》 北村賢〔百合丘〕

（今回の壮年大会の感想、今後の希望、課題点などフリートーク形式で、席順に発言）

- * 1泊開催、2泊開催それぞれ長所、短所がある。
- * 交わりの時間が多い方が良い。
- * 総会がスムーズになった。
- * 壮年として神学生のサポートについて話し合いたい。
- * 交わりの必要性を感じた。
- * 主日も入れて開催してはどうか？
- * 地元連合の紹介時間があるといい。
- * 参加する、参加できることが大切。
- * 総会はずまらない、時間をもっと短くしたい。地方大会は良いと思う、楽しい会にしたい。
- * 若い世代を引き込みたい。若い世代が率先してできる会にしたい。
- * 役員選挙は候補者を公示にした方が良い。
- * 地方の壮年の活動が活性化するようになればいい。
- * 地方では大型の開催が難しい。
- * 2泊を希望。交わりや情報交換が有意義だった。
- * ゆったりとして良かった。
- * 総会での番号制が良かった。（登録番号を言うことで、参加名簿で確認できるという意味か？）
- * 楽しかった。
- * 神学部の講座が開設されると良い。（壮年大会中に）
- * 若い世代との接点を増やしたい。

《総括》

- * 分団C グループ2では全体的に2泊開催を支持。その理由として時間に余裕があり、交わりに充てることができる。楽しいと感じている人が多かった。
- * 一方、課題としては若い世代や大会に参加したことがない人にもっと参加してもらいたい。

（文責：北村賢）

分団D「奨学金制度の充実」報告書

奨学金委員長 篠田 裕俊

1. 参加者（順不同・敬称省略）

加山 彰一（水戸）、鳥飼 好男（市川八幡）、山本 長邦（名古屋）、笹川 均（上尾）、
奥田 稔（前橋）、梶井 義郎（高松常盤）、前坂 昌弘（春日原）、
伊東 信吉（大富）、相模 裕一（西南学院）、堤 秀幸（品川）、廣島 尚（浦和）、
田口 昭典（金沢）、大場 和夫（所沢）、篠田 裕俊（田隈）

2. 報告

分団Dは、事前配布資料「奨学金制度充実の提案」について意見交換を行なった。提案内容については、概ね理解を示していただくとともに、様々な課題も浮き上がりとても有意義な話し合いとなった。

（1）奨学金給貸与期間の弾力的運用について

神学部での学びが、様々なパターンがあり、現行の奨学金規程では対応できないケースあり、その解決策として奨学金対象期間は4年のままで、学部・専攻科・大学院でどのように奨学金を受けるかは本人の選択に任せても良いのではないかという意見が大半であった。他に、1年生からも対象にしてはどうか、対象期間を4年ではなく6年としてはどうかという意見もあった。

（2）連合立等神学校の神学生への図書援助費について

東京バプテスト神学校および九州バプテスト神学校の神学生にたいして、西南大神学生と同様に図書援助費を給付することに反対意見はなかった。

ただし、制度上の違いもあることから、壮年会連合が提案するのではなく、両神学校から提案すべきではないかと意見があった。

なお、東京バプテスト神学校神学生奨学金が、授業料値上げに伴い改定されたことが九州バプテスト神学校には知らされておらず、周知方法について検討して欲しいとの意見があった。

（3）伝道者養成に従事する教員の後継者養成について

主旨については理解を示されたが、奨学金対象者が「神学部教員採用」の担保として捉えかねないので注意を要するとの意見があった。

また、連盟にも同様の奨学金制度があるが資金面から実施できていないので、そのための基金を設けるなども検討しても良いのではないかとの提案があった。

(4) 奨学金返還免除の見直し

短期間で離職することについては様々ケースがありもっと研究が必要ではないか。

また、赴任教会によって牧師給にかなりの差があるので、財政基盤の弱い教会に赴任した牧師については、返還免除や償還期間の延長などの提案があった。

また、1種は返還免除とし、2種を貸与にしてはどうかとの提案があった。

(5) 卒業延期中における伝道の業の従事期間について

提案に対する反対意見はなく、概ね賛同された。

(6) その他

その他、次のことについても話し合いを行ないましたが、時間が不足し十分な話し合いができなかった。

1. 中途退学者の取り扱いについて
2. 推薦教会へ赴任することについて
3. 協力牧師の取り扱いについて
4. 財政基盤が弱い赴任教会の負担軽減について
5. 奨学金給貸与条件の見直し
6. 女性連合奨学金について
7. 事務局体制の充実と事務負担の見直しについて

3. 分団を終えて

分団を始める前は、時間が余るのではないかと危惧していたが、皆様のご協力によって、活発な意見が交換され、むしろ時間不足となり十分な議論が出来ず進行をもっと工夫すべきであったと反省している。

意見交換を通じて、奨学金制度の充実は、概ね賛同されたが個別の案件については、もっと検討するとともに、実施にあたっては広く周知するとともに意見を十分に取上げて取り組む必要があると感じた。

また、奨学金制度についての理解が様々であり、奨学金制度についての周知をはかり理解を求めることが、神学生献金につながるのではないかと思う。

いずれにしても、大変有意義な時間であり、今後もこのような懇談の場が設けられることを願っている。

第52回全国壮年大会 壮年の課題共有の時間 分団E 「神学校献金（神学生奨学金献金）」の推進

「地方壮年連合内での神学校献金推進委員の働きを共有し、いかに壮年は神学校献金（神学生奨学金献金）推進に取り組むのか」

＊資料 ・「神学校週間のしおり（神学校週間によせて）」・「神学校献金推進のための三つ折りパンフレット」

2017年8月25日（金）16：50～18：00

出席者：大谷元光兄（高崎・北関東） 高井透兄（推進委員・高崎・北関東） 加山文規兄（水戸・北関東）
岡田利男兄（浦和・北関東／司会） 原田潔兄（浦和・北関東・書記） 野口正俊（志村・東京・分団R）
左京信雄兄（花野井・東京） 中村恭宜兄（川崎・神奈川） 粕谷郁夫兄（三島・西関東）
田口清吾兄（推進委員・岐阜・中部） 酒井俊一兄（推進委員・北大阪・関西）
村上信雄兄（大分・北九州） 曾根基雄兄（推進委員・児湯・南九州）

<開 会> お祈り／野口正俊

<挨拶と分団の進め方についての確認> 野口正俊

1. 分団メンバーによる自己紹介と抱負

2. 意見・提言

- ・3千万円の目標を達成していない。教会・地方連合で話し合ってほしい。
- ・推進委員を使命とし、10年以上担っている。コーヒー1杯・弁当代を節約し献金に充ててきた。
- ・多くの人に協力してほしいので、ドイツ菓子シュトレンを焼いて、売上げを献金に充てている。
今年からは、ジャムも始めた。80才（2020年）までは実行していきたい。
- ・一人一人が神学生を覚えて献金額を増やしていく。
- ・推進員が他教会に出て行って話す機会がない。教会・牧師の理解が無く来訪を断られることがある。
- ・神学校出身者である牧師が、教会内で経験談をあまり話さず、献金意識の向上がされていない
- ・地方連合に推進員の仕事を任せっぱなしでいいのか？推進員を置かない連合もある。
- ・実態の運用金は少なく、25名の学生が10年在籍すると、資金が枯渇する。内実を知っている人が危機感を一般の教会員に伝えていき、献金意欲を上げる。
- ・全国で何人の牧師を必要としているか？3割は無牧師教会。教会の経済性、年金牧師の活用。
- ・教会信徒の中から、推進員を呼んで話しを聴きたいとの動きが出てきて欲しい。
- ・推進員になった人に、役割・内容をしっかり伝えて働けるように、壮年会連合でバックアップして欲しい。
- ・なんで神学校献金（神学生奨学金献金）をする必要があるをしっかりと伝えていく。

<閉 会> お祈り／曾根基雄兄

以上

